

産学官連携の推進について

1. 第1回産学官連携サミット

昨年11月19日に、小泉総理にも出席いただき、全国規模で産業界、大学・研究機関等のトップが一堂に会し、対話・交流する「産学官連携サミット」を昨年11月19日に開催。

「第1回産学官連携サミット共同宣言」を採択し、産学官相互の理解の増進と信頼関係の構築を図った。

第1回産学官連携サミットの概要

- (1) 主催：内閣府、経済団体連合会、日本学術会議
- (2) 共催：文部科学省、経済産業省
- (3) 参加者：約 300 名(産業界の社長等約 110 名、大学学長等約 100 名、研究機関の長その他約 90 名)
- (4) 「第1回産学官連携サミット共同宣言」の骨子
 - 我が国の経済再生を図るため、研究開発の充実とその成果の活用を通じて我が国の産業競争力を強化することが重要。
 - 「産」「学」「官」は、産学官連携の進展が急務との共通認識に立つ。
 - 産業界においては、研究開発の自前主義から脱却し、大学等の知的ポテンシャルを活用し新技術・新サービスを創出。
 - 大学においては、国立大学の非公務員型法人への移行など改革を進めることにより、大学の自主的、自律的、柔軟な運営を展開。
 - 役所側においては、産学相互の連携を促進する制度改革、大学発ベンチャーの育成や地域科学技術振興など各種施策の推進。

2. 地域産学官連携サミット

昨年10月の九州を皮切りに全国9地域で「地域産学官連携サミット」を開催。産学官連携を軸として地域経済の活性化を図ろうという地元関係者の強い熱意の中、大きな盛り上がりを見せ、熱気あふれる議論を展開。

産学官連携と地域科学技術振興に関する予算は、平成13年度補正予算と平成14年度予算(案)を通じて拡充されており、地域の盛り上がりと相まって、具体的な連携活動の推進が期待される所。

(1) 開催状況

				参加者(概数)	} (開催済)
九州(福岡市)	平成13年	10月	20日(土)	300人	
近畿(大阪市)		11月	5日(月)	550人	
北海道(札幌市)		12月	1日(土)	300人	
中部(名古屋市)		12月	15日(土)	500人	
東北(仙台市)	平成14年	1月	26日(土)	450人	
中国(広島市)		2月	2日(土)	550人	
沖縄(那覇市)		2月	16日(土)	360人	
四国(高松市)		2月	23日(土)	420人	
関東(東京・品川)		3月	16日(土)	1000人(予定)	
				計 4400人	

(2) 地域産学官連携サミットの概要

- ①主催：内閣府、日本学術会議、地域経済団体
- ②共催：文部科学省、経済産業省、各開催地域の自治体
- ③主な議事
 - 主催者挨拶 尾身幸次 科学技術政策担当大臣
吉川弘之 日本学術会議会長 他
 - 文部科学省・経済産業省・各経済産業局による施策紹介等
 - パネルディスカッション（尾身科学技術政策担当大臣、吉川日本学術会議会長や地元経済界幹部、地元大学長が参加）
 - 各地域のサミット宣言等の採択
 主な内容：「産学官のネットワークの形成」
 「ベンチャー支援の環境作り」
 「地域ポテンシャル・ニーズに基づく技術開発」
 「TLOの拡充強化」など

3 . 今後の計画 ～ 第1回産学官連携推進会議 ～

昨年11月の第1回産学官連携サミットの成果を踏まえ、本年6月に京都で全国の企業・大学・行政等のリーダーや実務者（3000人規模）による会議を開催する予定。

産学官連携推進のため、実務レベルで課題を抽出し、具体的な解決策をとりまとめて、政策に反映させるとともに、企業や大学の活動に具体的に生かしていただくことを期待。

第1回産学官連携推進会議の概要

(1) 主催：内閣府、(社)日本経済団体連合会(予定)、日本学術会議

(2) 共催：文部科学省、経済産業省、総務省、厚生労働省、
農林水産省、国土交通省、環境省

(3) 日時、場所

- ・ 6月15日(土)～16日(日)
- ・ 国立京都国際会館(京都市)

(4) プログラム案

●シンポジウム

①主催者挨拶 尾身幸次 科学技術政策担当大臣
奥田 碩 (社)日本経済団体連合会会長(予定)
吉川弘之 日本学術会議会長

②基調講演 尾身幸次 科学技術政策担当大臣

③特別講演 海外からのゲストスピーカー

④課題別分科会 「大学発ベンチャーの育成」
「産学の共同研究(大企業中心)」
「地域中小企業に対する技術指導」
「産学官の共同プロジェクトの推進」

⑤分野別分科会 「ライフサイエンス」、「IT」、
「環境・エネルギー」、「ナノテク・材料」等

●交流パーティ

●展示等： 大学・TLO等による展示ブースの設置やインターネットによる紹介等を行う。